

|        |                      |      |    |
|--------|----------------------|------|----|
| 授業科目   | 経営史特論 ー近江商人論ー        |      |    |
| 単位数    | 2                    | 授業形態 | 講義 |
| 担当教員   | 上村 雅洋                |      |    |
| 実施日・時間 | 4月18日(土) 13:00~17:50 |      |    |
|        | 5月16日(土) 13:00~17:50 |      |    |
|        | 6月20日(土) 13:00~17:50 |      |    |
|        | 7月11日(土) 13:00~17:50 |      |    |
|        | 7月25日(土) 現地調査        |      |    |

### 【講義内容】

近江商人の経営史を中心に講義するが、日本経営史の諸問題、企業者史についても合わせて論じたい。歴史的な把握(動態的把握、因果関係の追究、連続と非連続、実証性の保持)を身につけることを目的としたい。一方的な講義でなく、質問などを交えた自由な討論を行いたい。

具体的には、①近江商人とは何か、②近江商人研究の意義、③近江商人の経営特性、④近江商人の成立条件、⑤近江商人の近代化、⑥近江商人の個別経営をとりあげる。

そこでは、近世社会において活躍した近江商人の合理的な経営とはどのようなものだったのか。どうして革新的な企業家である近江商人が出現したのか。近江商人は近代的な商人に果たしてなりえたのか。現存する伊藤忠商事や丸紅などの近江系企業は、それをどう乗り越えたのか。近江商人における日本の企業特性とは何かなどを考える。すなわち、近江商人の経営における合理性と限界について考えたい。

講義の最後の日(7月25日)には、滋賀県の現地へ一緒に行き、近江商人の足跡を実際に訪ねようと思います。

近江商人は、これまで商魂のたくましさから、特異な目で見られてきた。ところが、最近になりCSR(企業の社会的責任)という視点から近江商人の行動が注目され、近江商人の経営理念の中でも、「三方よし」(売り手よし、買い手よし、世間よし)ということが、いろいろなところで強調されてきた。企業の海外進出が進むにつれ、海外現地での企業行動が、近江商人の出店での商圈や地域住民への対応と比較されるようになった。また、企業のリスク管理が問題とされる中で、近江商人のリスク管理の先進性が脚光を浴びるようになってきた。

一方、滋賀県では、近江商人を地域振興の核にしようとする動きが見られ、近江商人の発祥地では町並みや近江商人の屋敷を保存し、博物館などの施設の充実がはかられるようになってきた。こうした最近の近江商人をめぐる動きを受けて、改めて一緒に新たな近江商人像を探ってみたい。

### 【テキスト・教材】

こちらで、プリントなどを配布します。

参考図書としては、拙著『近江商人の経営史』(清文堂出版、2000年、¥16,000)があります。

### 【事前学習】

入門書として、末永國紀『近江商人』(中公新書、2000年、¥740)、同『近江商人学入門』(サンライズ出版、2004年、¥1,200)をあげておきますが、最初の講義で文献リストを配布します。